昭和35年11月28日第3種郵便物認可

平成29年（2017年）　第2076号

国土交通省 平成28年度第２次補正予算
テールゲートリフター補助金
申請を受け付けます
2月1日～2月24日
詳細は６面をご覧ください

Japan Trucking Association

広報 とらっく

創刊 昭和28（1953）年2月
1月1日号
発行所 公益社団法人 全日本トラック協会
〒160-0004 東京都新宿区四谷三丁目2番5
全日本トラック総合会館
☎（03）3354-1029（総務部広報室）
http://www.jta.or.jp
※紙面に関する問い合わせは広報室まで
（会員の購読料は会費に含みます）
全ト協会員専用ページのパスワード ～1/14 2624、1/15～2/14 4011

桜咲き誇る「塩竈（しおがま）神社」

盛夏の街を彩る「仙台七夕まつり」

戦国の世を駆け抜けた「伊達政宗公」

神秘的な「みやぎ蔵王の樹氷」

（写真提供：上記4点は宮城県観光課、右は（一社）松島観光協会）

日本三景「松島」に昇る朝日。全日本トラック協会は10月3日、宮城県仙台市で「第22回全国トラック運送事業者大会」を開催する。

平成29年の新年を迎えるにあたり謹んでご挨拶を申し上げます。

公益社団法人 全日本トラック協会
会長　星野 良三

平成28年を振り返りますと、一昨年から燃料価格が下がりトラック運送業の経営改善が図られましたが、12月に石油輸出国機構の原油減産合意がなされた一方、米国の利上げにより円安が進行するなど本年の燃料価格の動向は、これまで以上に注視していく必要があると思います。

国内経済情勢を見ると、アベノミクス効果に加え数次の経済対策により景気改善が進む反面、人手不足感が強まりました。労働条件が一般産業と比べて厳しいトラック運送業界では、ドライバーの確保が一段と難しくなっています。このため、全ト協は二つのことに取り組んでいます。

一つは「トラック輸送における取引環境・労働時間改善協議会」の設置及び運営です。労働基準法の改正を期に、国土交通省及び厚生労働省のご指導により、荷主も入った形で中央及び47都道府県全てに作っていただきました。我が業界始まって以来の取り組みであり、手待ち時間の解消や附帯業務の有償化など、全ト協及び地方ト協が連携して総力を挙げて取り組んでまいります。

二つ目は、「準中型免許」の創設であります。我が業界にとって「中型免許問題」が長年の懸案でありましたが、昨年、道路交通法を改正していただき、高校新卒者が2トン車を運転できる免許を作っていただきました。本年3月の施行を踏まえ、若年労働者の確保がますます難しくなる中、あらゆる施策を投入し高校新卒者の大量採用を実現してまいります。

最後ですが、平成23年6月に会長就任以来6年をかけて全国のトラック協会に直接出向き、会長及び副会長の皆様と懇談し地域で抱える諸課題について意見交換をして、これを全ト協の業務運営に反映させてまいりました。おかげさまで、本年6月をもって全都道府県への訪問を終了する予定です。お世話になった会長、副会長の皆様に改めて御礼申し上げます。

結びとなりましたが、本年も会員事業者皆様方のますますのご発展とご健勝並びにご多幸を心より祈念し、新年にあたり私のご挨拶といたします。

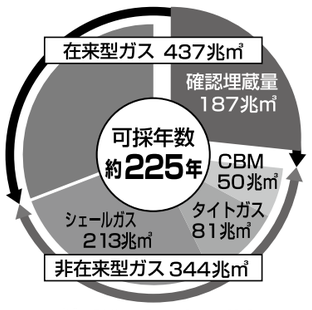
平成29年元旦

天然ガストラックは エネルギーセキュリティに貢献します

NGV

輸送部門のエネルギー源は98%が石油に依存しており、燃料の多様化が必要です。東日本大震災直後にはガソリンや軽油が不足する中、天然ガストラックは通常通り配送することができました。天然ガスは、エネルギー調達先が世界広範囲に分布し、シェールガスなどの非在来型のガスをあわせると可採年数は約225年あると言われています。

2016年11月、国内メーカーによる大型天然ガストラックの車型が追加されました



出典：IEA World Energy Outlook 2015

一般社団法人 日本ガス協会　〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-15-12　TEL：03-3502-0215　http://www.gas.or.jp/ngvj/

三井住友海上 経営サポートセンター

物流企業の経営リスク解決をご支援する「人事労務」「物流改善支援」等様々なメニューをご提供します。

入会金・年会費は無料

お問い合わせは、
三井住友海上経営サポートセンター事務局まで

立ちどまらない保険。MS&AD 三井住友海上
東京都千代田区神田駿河台3-9
TEL：03-3259-1443
http://ms-keiei-support.com/

三井住友海上は「経営革新等支援機関」です。

配達くん 運輸業専門の経営管理システム

時代のニーズにお応えし、益々パワーアップした 配達くん13

●信頼されて 32 年！	配達くんは、運輸業界にデビューしてすでに 32 年、多くの実践ノウハウに研かれ、現場にフィットした使い易いシステムを構築しました。
●最適システムをご提供！	業務の流れを変えずに導入したい・自社独自のシステムを作りたい。そんなご要望にピッタリなシステムを提供します。また、ご導入後のシステム追加・変更にも柔軟に対応します。
●信頼にお応えします！	配達くんの優れた能力を存分に活用していただけるよう、経験豊富な SE と専任オペレータが対応します。もちろん、アフターサポートも万全です。

配達くん　検索　クリック
http://www.daisosystem.co.jp
または、電話でお気軽にお問い合わせください。
詳しい資料を無償で提供しています。

大創システム株式会社 DAISO SYSTEM CO.,LTD.
本　社 〒110-0005 東京都台東区上野 1-17-6
TEL.03(3831)3300 FAX.03(3831)3369
東北支店 〒984-0805 宮城県仙台市若林区南材木町 65
TEL.022(216)5851 FAX.022(216)5852

平成29年「年頭の辞」

国土交通大臣　石井 啓一

平成29年の新春を迎え、謹んでご挨拶を申し上げます。

今年も、国土交通行政に対する皆様の変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます。

我が国の人口は、20年の約1億2800万人をピークに減少が始まっています。少子化は深刻で、高齢化も極めて速いペースで進んでいます。当面、生産年齢人口が減少していくことは、もはや動かしがたい事実です。しかしながら、働き手の減少を上回る生産性の向上により、潜在的な成長力を高め、新たな需要を掘り起こしていくことによって、経済成長を続けていくことは十分可能です。

現在、政府はGDP、600兆円の実現を目指していますが、ビッグデータやICTといった新技術の活用や既存インフラの徹底活用などの取り組みを通じて生産性向上を図り、この目標達成に貢献していきたいと思っています。こうした観点から、昨年を「生産性革命元年」と位置付け、生産性向上に向けた先進的な取り組みとして20の「生産性革命プロジェクト」を選定してまいりました。今後は、できるだけスピーディーにこれらのプロジェクトの具体化を進め、本年を生産性革命「前進の年」にしたいと考えています。併せて、生産性向上の意識を国土交通省の様々な施策分野に浸透させてまいりたいと思っています。

我が国の持続的な経済成長を支えるため、生産性の向上による成長力を強化するとともに、新たな市場の開拓に繋がる取り組みとして「生産性革命プロジェクト」の具体化を推進してまいります。

交通事故の削減や地域公共交通の活性化、渋滞の緩和や国際競争力の強化など、自動車や道路を巡る諸課題の解決に大きな効果が期待されている自動車の自動運転について、昨年設置した「国土交通省自動運転戦略本部」において、車両の技術基準等の必要なルールの整備等を推進してまいります。

また、ETC2・0等のビッグデータを活用し、渋滞箇所の状況をきめ細かく把握・整理し、効果的なピンポイント渋滞対策を行える取り組みや、高速道路の渋滞状況を踏まえて料金を機動的に変動させ、交通を分散させる新たな料金制度の導入に向けた検討を、引き続き進めてまいります。

物流分野においては、業務効率の改善と付加価値の向上によって、物流産業の大幅なスマート化を図る「物流生産性革命」を推進しております。このため、共同輸配送、モーダルシフト等の輸送の効率化や手待ち時間削減に取り組むとともに、アジア等において我が国の物流サービスの競争優位を生み出すため、クール宅配便をはじめとする我が国の物流システムの国際標準化の推進等を図ってまいります。

一方、東日本大震災からの復興について、インフラ復旧、住宅再建・復興まちづくりなどの取り組みを一段と加速してまいります。復興道路・復興支援道路については、順次、開通予定年次が明確になってきており、全体の約9割で開通済みまたは開通見通しを公表しております。また、常磐自動車道については、復興・創生期間内での一部4車線化の完成を目指すとともに、大熊インターチェンジ（IC）・双葉ICの整備を推進してまいります。

また、熊本地震では、最大震度7の地震が4月14日および16日に二度発生し、甚大な被害をもたらしました。地震発生から今月で9か月が経過し、生活の再建は着実に進んでおります。大きな被害を受けた阿蘇大橋地区については、俵山トンネルが昨年末に開通し、熊本市内と南阿蘇地区の東西交通軸が確保されるなどインフラの復旧を進めています。崩壊斜面対策について、年初から有人施工を開始し、復旧を加速化します。通行止めとなっている阿蘇大橋地区の国道57号・325号も含め、引き続き、国土交通省のもつ技術力を結集し、一日も早い復旧に努めてまいります。

国交省はこれらの取り組みを通じ、持続的な経済成長や豊かな国民生活の実現を目指してまいります。新年が皆様方にとって希望に満ちた、大いなる発展の年になりますことを祈念いたします。

（要旨）

厚生労働大臣　塩崎 恭久

平成29年の新春を迎え、心よりお慶び申し上げます。本年も何とぞよろしくお願い申し上げます。

昨年6月、「ニッポン一億総活躍プラン」が閣議決定されました。まずは50年後も人口1億人を維持し、その一人ひとりの人生を豊かにしていくことを目指し、男性も女性も、高齢者も若者も、障害者や難病のある方も、一度失敗を経験した方も、あらゆる方がそれぞれ活躍できる包摂的な社会の実現に取り組みます。そして、回り始めた経済の好循環を更に加速化させ、経済成長の成果を子育てや介護などの社会保障分野に分配し、更に成長につなげる「成長と分配の好循環」を構築していきます。

働き方改革は、一億総活躍社会の実現に向けた最大のチャレンジであり、日本の企業や暮らし方の文化を変えるものです。「働き方改革実行計画」の年度内の取りまとめに向けて、働き方改革担当大臣ともしっかり連携して確実に取り組みます。

長時間労働の是正については、私を本部長とする「長時間労働削減推進本部」において、平成28年4月から、監督指導の対象を従来の月100時間超から月80時間超の残業を把握した全ての事業場に拡大するなど、法規制の執行強化に取り組んでいます。今後、働き方改革実行計画において、実効性のある対策が取りまとめられるよう、検討を進めていきます。

公正な評価に基づく「同一労働同一賃金」の実現は、非正規雇用の方々の処遇改善による女性、若者、高齢者等の能力の発揮につながるとともに、働く個々人の納得性を高めることになり、一人ひとりが輝く社会とするために重要です。このため、どのような待遇差が合理的であるか又は不合理であるかを事例等で示す昨年末のガイドライン案に引き続き、今後は、必要な法改正に向け、躊躇することなく準備を進めていきます。

企業の生産性向上の実現に向けて、生産性要件の設定や金融機関との連携などの労働関係助成金の抜本改革や、人材育成の充実、成長産業への転職や復職の支援を進めていきます。

雇用保険制度については、昨年8月に閣議決定された「経済対策」のほか、働き方改革の観点からも人材育成の充実が重要であること等を踏まえ、制度全般の見直しについて議論を行ってきました。職業紹介事業の機能強化や求人情報等の適正化と併せ、必要な制度改正に取り組みます。

生涯現役社会の実現に向けた環境整備のため、今年度中に策定する継続雇用延長・定年引上げのためのマニュアルの普及や、65歳以上への定年引上げ等を行う事業主に対する支援を進めていきます。また、ハローワークの高齢者専門窓口の増設などにより、働きたいと願う高齢者の希望を叶えるための支援を一層進めていきます。

さらに、本年1月から施行された改正育児・介護休業法、改正男女雇用機会均等法の周知徹底に取り組むとともに、保育所に入れない場合の育児休業期間の再度の延長や、男性の育児休業取得促進について検討を進めていくほか、女性の活躍を一層推進していきます。

受動喫煙防止対策の強化については、健康増進の観点に加え、東京オリンピック・パラリンピックや、その前年に開催されるラグビーワールドカップを契機に、従来の努力義務よりも実効性の高い制度とし、スモークフリー社会に向けた歴史的な一歩を踏み出せるよう、具体的な制度設計を進めていきます。

東日本大震災の発生からもうすぐ6年が経ちますが、避難生活が長期化している被災者の方々も多くいらっしゃいます。引き続き、私自身も復興大臣であるとの強い意識で、被災者の方々の心に寄り添い、医療・介護の体制整備や雇用対策等といった対策を進めていきます。

全国各地での災害対応についても、復旧・復興の加速に向けて全力を尽くしていきます。

厚生労働行政には多くの課題が山積しています。国民の皆様には、一層の御理解と御協力をお願い申し上げ、年頭に当たっての私の挨拶といたします。

（要旨）

自由民主党トラック輸送振興議員連盟会長　細田 博之

新年あけましておめでとうございます。

全国のトラック協会会員の皆様方には、旧年中はひとかたならぬご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、我が党が政権を奪取して4年が経過しました。それから今日まで、デフレ脱却と経済再生に全力を傾け、アベノミクスを強力に推し進めてきました。その結果、昨年の我が国の景気は堅調に推移してまいりました。

一方で、少子高齢化の進展に伴い、様々な業界で人手不足の問題が深刻さを増している現状があります。また、近年低水準で推移してきた燃料価格につきましても、12月に石油輸出国機構（OPEC）加盟国とOPEC非加盟の主要産油国との間で協調減産が合意されました。これにより、原油価格が上昇に転じることが考えられ、トラック運送業界にとっては、昨年までとは一転して厳しい局面を迎える可能性も否定できません。

政府では、昨年6月に「ニッポン一億総活躍プラン」を閣議決定し、「希望を生み出す強い経済」「夢をつむぐ子育て支援」「安心につながる社会保障」の「新・三本の矢」の実現を目的とする「一億総活躍社会」の実現を目指しています。この3つの分野にそれぞれ横断的な課題として、「働き方」を挙げることができます。人口が減少していく中で、これまでとは違う「多様な働き方」を実現していくことで、高齢者や女性など様々な方々に働いていただけるようにする「働き方改革」を推し進めてまいります。

近年、大きな問題となっている長時間労働の是正などといった課題について、働く方々の視点に立った検討を進め、「働き方改革」を推進していくことで、大企業のみならず中小企業の皆様方にとっても、成長への投資や従業員への賃上げができる環境を創り上げていきたいと考えております。

設備投資や従業員への賃上げが可能となる「働き方改革」を推進していくにあたり、まず必要となってくるのは、トラック運送業界の皆様をはじめとした、中小企業への支援策を適切に行っていくことだと認識しております。先般まとまった「平成29年度税制改正大綱」では、設備投資や賃上げに取り組んだ企業への減税措置を盛り込みました。こうした仕組みを新たに加えることで、中小企業がこうした投資に踏み切れるような環境の整備を後押ししてまいります。

トラック運送業界をはじめとしたサービス産業にとっては、業界の活性化・生産性の向上を推進していくことで、我が国の持続的な経済成長に資することが期待できます。

国土交通省と厚生労働省が主導している「トラック輸送における取引環境・労働時間改善協議会」および「トラック運送業の生産性向上協議会」では、ドライバーの長時間労働の是正に向けた課題の洗い出しや、解決手段を探るためのパイロット事業（実証実験）が昨年よりスタートしております。ドライバーの長時間労働は、トラック運送業界が魅力ある業界になるためには解決すべき課題であると認識しております。また、国土交通省では「生産性革命」への取り組みが進められており、ダブル連結トラック等の実証実験が進められております。

トラック運送業界の生産性向上を促していくことで、中小運送事業者の皆様にとりましても「足腰の強い経営」の実現が期待されます。私たち自由民主党トラック輸送振興議員連盟といたしましては、今後も政府・与党と連携し、皆様方のお声を頂戴しながら、トラック運送業界が健全な発展を遂げられますよう、尽力してまいります。

我が国の物流を力強く支え続けていくために、業界の皆様方と一体となって、諸課題に対して精力的に取り組んでまいる所存であります。全国のトラック協会会員事業者の皆様におかれましては、引き続き、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

新しい年が皆様方にとりまして希望に満ちた、大いなる発展の年となりますことを祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

DTG7の新機能

デジタコ＋ドラレコ
国内初!
路面&車間距離検知機能を搭載
●横断歩道検知　●車線逸脱　●車間距離検知
※検知機能は、天候・道路状況・運行環境等で正常に機能しない場合があります。

DTG7＋従来システム
運用中の
矢崎従来システムとの互換性
●互換性により無理なく一台からも導入をご検討頂けます

乗務員↔運行管理者
危険運転の兆候をリアルタイムに
共有し予防安全を強化
●危険運転を乗務員、事務所（PCまたはモバイル）にお知らせ

動態情報＋運行画像
動態情報と運行画像を合わせた
高度な安全運転評価を実現
●収集データを安全評価　●KYTなどに活用可能

DTG7＋カメラ6台
最大6カメラで、どこでも見える!
●車室内／車室外を問わず、6台のカメラが接続可能

カード＋無線LAN＋LTE
選択可能な3種類のデータ転送方式
●事務所の環境やご要望に応じてお選び頂けます

デジタルタコグラフの導入は、50年以上の実績と信頼の矢崎にお任せください。

《製品ラインナップ》

アナログタコグラフ

一目でわかる「不朽の名作」
ATG21

単機能型／高機能型デジタコ

カードタイプの基本型デジタコ
DTG3／4

多機能通信型

カード不要&ワンタッチクラウド型
DTG5

矢崎エナジーシステム株式会社　http://www.yazaki-group.com/

計装事業部：〒427-8555 静岡県島田市横井1-7-1 ☎(0547)37-2601
東北計装営業部（仙台支店）☎022(284)9113　関東計装営業部（埼玉支店）☎048(654)2188　関東計装営業部（東京支店）☎03(5782)2703
中部計装営業部（名古屋支店）☎052(769)1533　関西計装営業部（大阪支店）☎06(6458)8091　中国計装営業部（広島支店）☎082(568)7803
九州計装営業部（福岡支店）☎092(411)4833　矢崎総業北海道販売（株）☎011(852)2913　矢崎総業四国販売（株）☎087(833)3337
※電話はすべてダイヤルインです。

公明党トラック問題議員懇話会会長　北側　一雄

新年あけましておめでとうございます。

トラック協会会員事業者の皆様方には、平素から格別のご高配を賜り、謹んで御礼申し上げます。

トラック輸送産業は、国民生活と産業活動を支える物流の基幹産業であり、国民生活の向上と我が国経済の発展のために重要な使命を果たしていただいておりますことに、心より敬意を表します。

さて、我が国では、少子高齢化の進行に伴い、生産活動の中核をなす生産年齢人口が平成7年をピークに減少に転じており、様々な業界において労働者不足が深刻な問題になりつつあります。産業活動の担い手が減少することで、我が国の経済成長が阻害されることが懸念されており、労働力不足への対応が喫緊の課題となっております。

こうした厳しい情勢の中で、我が国が経済成長を遂げるためには、伸び悩んでいる家計の消費や企業の投資を促していく必要があります。

私たち公明党は、成長と分配の好循環が隅々までゆきわたる日本経済を構築し、「生活者優先の経済」の確立により経済再生を果たしていくよう、様々な施策を力強く推進してまいります。なかでも、日本経済を支える「中小企業」「地域経済」の活性化が、成長力強化や経済の好循環への重要なカギとなります。

成長と分配の好循環を起こさせるためには、まず企業が賃上げや投資に前向きになるような環境づくりが、何よりも必要となってまいります。こうした点において、政府の果たすべき役割は大きいと感じております。

大企業だけでなく、トラック運送業界をはじめとした中小企業・小規模事業者にまで、収益増や従業員の賃上げなどの動きを波及させるために、公明党は政府への働きかけを行い、中小企業・小規模事業者が弱い立場に置かれがちな、下請け取引慣行の改善に力を入れています。新年におきましても、皆様方のお声を頂戴しながら、下請け取引慣行の改善や投資促進税制の推進など、中小企業・小規模事業者の経営を強力に支援してまいります。

一方で、トラック運送業界では、急速にドライバーの高齢化が進行しております。トラック運送業界が安定した輸送サービスの提供を続けていくためには、女性や若者、そして高齢者や障がい者といった新しい労働力の活用が求められてまいります。公明党は、政府・自由民主党と連携しながら、「働き方改革」への取り組みを断行してまいります。

着実な賃金上昇を確保し、「働き方改革」によって可処分所得、可処分時間を拡大することで国内消費を喚起し、内需の底上げに繋げてまいります。日本経済の成長を確かなものとすることが、「生活者優先の経済」への大きな前進になると、私たち公明党は考えております。今後もトラック運送業界の皆様との連携を密に図りながら、諸施策を推し進め、成長と分配の好循環を起こしてまいりたいと考えております。

近年、我が国では、自然災害の頻発化、深刻化が見られます。昨年は、4月に発生した熊本地震や、夏に北海道・東北地方を襲った台風、また10月に発生した鳥取県中部地震などにより、各地で大きな被害に見舞われました。さらに、道路等のインフラ設備の老朽化も進んでおり、老朽化に伴う事故の発生や災害発生時における危険性などが心配されます。

公明党は、着実かつ速やかに防災・減災対策を進めていくよう、政府に働きかけております。トラック協会会員事業者の皆様方が、日頃の安定した輸送サービスの提供と、災害発生時の緊急輸送の担い手としての使命を、十二分に発揮していただけるよう、全力で取り組んでまいります。

公明党は、地域に根を張った政党として、生活者の目線から物事を捉え、現場感覚に徹し、中小企業・小規模事業者の皆様のお声を大切にし、本年度も諸施策に反映させてまいります。本年も引き続き、会員事業者の皆様方と思いをひとつにしながら、トラック運送業界が直面している課題に対して果敢に取り組んでまいる所存です。

最後になりますが、本年も会員事業者の皆様の社業のご発展とご健勝を祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

国土交通省自動車局長　藤井　直樹

皆様、新年あけましておめでとうございます。

平成29年の新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

国土交通省としては、自動車は社会経済活動に不可欠かつ人々の生活にとって最も身近な乗り物であるとの認識の下、一体となって、(1)安全性、環境性能の向上、(2)生産性の向上、(3)サービスの向上――を3本の柱として、施策を推進してまいります。

自動車の安全対策については、昨年6月の交通政策審議会陸上交通分科会自動車部会の取りまとめを踏まえつつ、着実に取り組みを推進してまいります。特に、相次いで発生している高齢運転者による交通事故については、自動運転技術をはじめとした先進安全技術の活用により事故を防止する観点から、更なる対策について早急に検討してまいります。安全基準については、前面衝突時の乗員保護基準の強化を行うほか、安全効果の高い先進安全技術について基準化・義務化の検討を進めるなど、引き続き、強化・拡充を図ってまいります。

先進安全自動車（ASV）推進プロジェクトについては、平成28年3月に、ドライバー異常時対応システムに関するガイドラインを策定しました。引き続き先進安全技術の開発・普及の促進に努めてまいります。

事業用自動車の事故削減に向けた取り組みについては、運輸安全マネジメント制度の推進、衝突被害軽減ブレーキやデジタル式運行記録計・映像記録型ドライブレコーダーの普及促進などを着実に実施し、安全・安心の確保に万全を期してまいります。

地球温暖化対策に関しては、昨年5月に、パリ協定の長期目標を踏まえ、2030年度に温室効果ガスを25％削減する目標の達成に向けた取り組みを盛り込んだ地球温暖化対策計画が閣議決定され、昨年11月に、国連気候変動枠組条約のパリ協定を受諾しました。我が国の二酸化炭素排出量の2割を運輸部門が占め、その大宗が自動車起因であるため、自動車単体での地球温暖化対策が重要です。

また、平成29年度税制改正大綱においてエコカー減税・グリーン化特例が要件を見直した上で2年間延長されることが盛り込まれました。トラックの対象車両の割合は概ね維持されたことで、運送事業者の負担軽減が図られました。これら、環境対策・省エネ対策に対する予算措置とも相まって、環境性能に優れた車両への計画的な代替が進むことを期待しています。

トラック事業は、我が国の経済と人々の暮らしを支えている重要な産業です。他方、その担い手のほとんどは中小事業者の方々であり、荷主等に対して立場が弱く適正な運賃が収受できない、荷主都合の待ち時間を余儀なくされているなどの課題があります。さらに、荷主との取引だけでなく、下請多層構造のなかにも課題があると認識しております。

このような課題認識のもと、まず、荷待ち時間等長時間労働の改善に向けて、「トラック輸送における取引環境・労働時間改善協議会」の枠組みの中で、荷主とトラック事業者が共同でその改善に取り組むパイロット事業を、昨年に引き続き全国で実施していく予定です。

人材確保に向けては、労働条件の改善が何よりも重要です。トラックについては、前述した協議会の枠組みを活用し、荷主も含めた関係者が一体となってその改善に取り組むとともに、中継輸送の推進により、宿泊を伴わない勤務形態を可能とするなど、より幅広い方に運転者として活躍いただける環境づくりも後押ししてまいります。

加えて、女性の採用拡大に向けて、トラガール等のキャンペーンを通じ、女性ドライバーの採用に向けた取り組みや、子育て中の女性が働き続けることのできる環境整備を行っている事業者を支援・PRすることにより、女性の新規就労・定着を図ってまいります。

最後になりましたが、自動車に関わられている皆様方が、この一年、それぞれの分野において大いにご活躍され、一層のご発展を遂げられますことを祈念いたします。

（要旨）

国土交通省自動車局貨物課長　加藤　進

明けましておめでとうございます。平成29年の新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

昨年は各地で地震や台風による自然災害が発生し、中でも4月に発生した熊本地震は大きな被害をもたらしました。まず、被災された皆様方に、改めてお見舞いを申し上げます。

一方で災害直後より、トラックはその機動力を発揮し、いち早く緊急物資の輸送にご協力いただきました。災害発生時においても、あるいは平時においても、我が国の経済と国民の生活を支えるライフラインの担い手として、トラック運送業界でご活躍されている皆様方に、改めて敬意を表したいと存じます。

近年、事業用トラックが第一当事者となる死亡事故件数は減少を続けておりますが、昨年3月には広島県の山陽自動車道八本松トンネルにおいて、トラックの追突による多重衝突により、2人の方が亡くなられ、多数の方が負傷されるという事故も発生しています。また、昨年1月には長野県軽井沢町において、スキーバスの転落により多数の方が亡くなられるという、大変痛ましい事故も発生しています。事業用自動車の安全と安心をより確かなものとするために、国交省といたしましても様々な対策を講じているところですが、皆様方におかれましても、引き続き、事故防止に向けた最大限のご努力をお願い申し上げたいと存じます。

さて、トラック運送業界が抱える人手不足等の諸課題への対策として、大きく分けて①取引環境の改善、②労働時間短縮と生産性向上――の2点が必要であるとの認識の下、次のような施策を展開しているところです。

まず、平成27年に国交省・厚生労働省が設置した「トラック輸送における取引環境・労働時間改善協議会」の枠組みの中で、中央での議論と並行して、28～29年度は全都道府県における協議会において「パイロット事業」を展開し、荷待ち時間の削減による労働時間の短縮等の実証実験を行っているところです。また、この協議会の下に、昨年新たに「トラック運送業の運賃・料金検討会」を設置し、今日までに2回の会合を開催いたしました。現在、運賃・料金の収受状況等に関する詳細な実態調査を実施しており、今後はその結果を踏まえて、適切な対応方策を検討してまいります。

国交省では、昨年を「生産性革命元年」と位置付け、あらゆる分野における生産性向上に向けた取り組みを進めています。

トラック運送業についても「物流生産性革命」の一環として、改正物流総合効率化法の枠組みを活用し、共同輸配送等の取り組みを加速させるほか、28年度第2次補正予算を活用し、荷役の効率化に資する「テールゲートリフター」の導入補助等の実施を予定しております。

その他、トラック輸送の省人化に向けた「ダブル連結トラック」の社会実験を開始するとともに、長距離運行を複数人で分担することで、ドライバーの労務負担の軽減が期待される「中継輸送」について、実証事業も実施しているところです。

取引環境の改善に向けては、荷主・運送事業者間の取引だけでなく、トラック運送業界内の元請・下請事業者間の取引についても適正化を推進する必要があります。首相官邸において開催されている「下請等中小企業の取引条件改善に関する関係府省等連絡会議」での議論を受け、昨年11月に根本幸典国土交通大臣政務官から全日本トラック協会に対し、業界内における下請多層構造の改善や取引条件の改善に向けた「トラック運送業の適正取引推進のための自主行動計画」の策定を要請いたしました。また、併せて、根本政務官から農林水産省および経済産業省に対し、取引条件の改善に向けて荷主への働きかけを要請しています。

政府全体で取引条件改善に向けた動きが活発化している今、関係者が一体となって取り組みを展開することが重要です。皆様方にも、是非ご理解・ご協力をいただきたく、お願い申し上げます。

この他、新しい動きとして、本年3月12日から「準中型自動車免許制度」がスタートします。この免許では、18歳で車両総重量7・5トンまでのトラックを運転できるようになることから、若年層を中心にトラックドライバーへの新規就業が促進されるものと期待しております。

もう1つは「自動運転」の技術開発です。昨年11月に「国土交通省自動運転戦略本部」が設置され、自動車の自動運転について議論がスタートしたところです。今後、こうした技術革新を、効果的かつ適切な形で事業に活用できるよう、検討を進めてまいります。

最後になりましたが、本年が皆様方にとってよりすばらしい一年となりますよう、衷心より祈念申し上げまして、私の新年のご挨拶とさせていただきます。

広報とらっく 新春特集

トラック運送業界における従業員満足度アップを目指して

運送業は一般的に離職率が高く、また転職経験者が多いといわれている。しかし、事業の安定的な継続を考えた場合、新入社員の確保はもちろん大切であるが、現在勤務している社員の満足度を向上させ、離職を食い止めることで、業務が円滑に回り、将来への事業の飛躍に向けた足固めが可能となる。さらに「社員にとって良い会社を作っていく」ことで離職率低下という効果を生み、業務の円滑化に繋がることから、業績をアップさせていくことができる――このような好循環を生み出すことが、運送業界全体の魅力向上に繋がるのではないだろうか。そこで、本企画では、従業員満足度を向上させることで離職率減少に向けて取り組んでいる運送事業者の事例を取り上げ、運送業界の魅力向上への方策をリポートする。

第1回目は、㈱須賀川東部運送（福島県須賀川市、吉田雅弘代表取締役）における取り組みを紹介する。

第1回 成長を実感できる職場環境

株式会社須賀川東部運送（福島県須賀川市）における取り組み

コミュニケーション強化を通じ　社員の結束力に磨きをかける

社員に対する評価・表彰制度が　成長を自覚させるきっかけに

5温度帯倉庫を整備し、冷凍・チルド食品輸送などに取り組む須賀川東部運送

吉田 雅弘 社長

輸送品質向上のカギを握る「社員の質」　品格ある社会人の育成に力を注ぐ

須賀川東部運送は、福島県から関東などへの長距離輸送を行う一方、県内向けの冷凍・チルド食品輸送にも注力している。また、5温度帯（暖房・常温・定温・冷蔵・冷凍）倉庫を整備するなど、倉庫事業にも精力的に取り組んでいる。

さて、吉田氏は平成22年4月に同社の社長に就任した。同社の経営に際しては、先代である吉田孝二氏の経営方針を継承しながらも、「新しいカラーを出していきたい」と考えたという。その一環として、同社における事業運営のモットーに「進化」「人間らしさ」「品質＝人質（じんしつ）」「高品質物流の達人」を掲げた。

「昨日までの常識は今日からの非常識」という意識をもち、時代の変化に対応しながら品質改善を推し進め、会社が変わり続けて進化していくことで経営の安定を実現させる。そのためには、社員全員が業務に対する意識を変え、「品格ある魅力的な社会人」へと成長し、日々知恵を絞って創意工夫を続けていく必要がある。つまり、「輸送品質向上のカギを握るのは、同社で働く社員の質の向上である」と同社では位置付けているのである。

そうした観点から、同社ではかねてから同社の輸送品質を支える「人」の育成に力を注いできている。

人材確保に関しては、須賀川市や郡山市などといった地元在住の運送業経験者を採用することが多く、2年ほど前までは新卒採用は行ってこなかった。現在、社員の平均年齢は43歳だが、70人ほどいる乗務社員のうち1割程度が高年齢者である。乗務員不足という業界全体の流れを受け、同社においても彼らが退職した後の補充に苦労しているそうだ。しかしながら、このまま手をこまねいていては人材が不足し、これまで積み重ねてきた貴重な経験も失い、最終的には経営にも深刻な影響を与えかねない。

そこで、同社では攻めの姿勢に転換し、収益性のある持続的で安定した経営基盤の確立を図るために様々な取り組みを進めている。そのひとつが、高校新卒者採用の実施である。

若くて地元愛にあふれた優秀な人材を獲得すべく、2年ほど前からセミナーやイベント等に参加。今年度からは高校生対象の求人もスタートさせた。この4月には、フレッシュな人材が同社に入社する予定である。

ビジョンを共有し一致結束するため　「経営計画発表大会」で工夫を凝らす

同社では、先にも紹介したように「品質＝人質」をモットーに、品格ある魅力的な社会人の育成を目指している。併せて、社員が同じ方向に向かって一緒に協力していき、一体感を生み出していくような社風の醸成にも力を注いでいる。同社で働く一人ひとりの社員が、仲間との一体感を感じながら、社会人として成長することのできる環境が、同社では整えられている。

同社では平成6年から、「経営計画発表大会」を春と秋の年2回実施している。これは、簡単にいうと全社員向けの会社方針説明会であるが、ここには全社員が一丸となるための仕掛けがふんだんに盛り込まれている。

まず、大会は日曜日に開催されるが、冠婚葬祭以外の欠席は認めず、全員出席を義務付けている。そして、資料準備や会場設営は全て社員が行うほか、司会・設営主幹には責任感を育ませるために、若手を抜擢することにしている。

大会開催の目的は「全社員が同じ方向を向く」ことであるが、それを実現させるために様々な施策が取り入れられている。

①経営方針が「伝わる」ように、見れば「すぐ分かる」資料を準備

大会で使用される資料は100ページを超えるほどのボリュームのあるものであるが、中身は図1のようにイラストや図が多用されているほか、唱和内容にはふりがなを振るなど、ひと目で見て伝わりやすいものとしている。

イラストは外部のイラストレーターに依頼しているものの、文面などは社内で考案。目標を説明するページでは、「すべきでないこと」と「すべきこと」を並列させて記載し、分かりやすくした。また、「すべきでないこと」には社員の心の中の言葉をわざと取り上げ、「自分も本来すべきでないことをしているのではないか」と自覚させることで、改善を促すようにしている。

②眠らせない、飽きさせない

大会は長時間に及ぶため、なかには眠気を催す社員が出てくることが考えられる。しかし、社員全員での唱和や指差し呼称訓練、服装点検・「ハイ！」訓練（後述）など立たせたり声を出させる機会をスケジュールに散らばせておくことで、社員を眠らせないように工夫している。なお、唱和では、社員に不足している点や、その年に特に力を入れて改善していきたいポイントについて、役員、幹部、社員全員で声を出し、印象付けるようにしている。

また、大会のマンネリ化を防ぐために、例えば「指差し呼称のやり方を変える」「唱和内容を変える」など、飽きさせない工夫や新しいメニューも随時取り入れている。新しい何かに社員全員が取り組み、大会までに何度も練習を行い、大会で実践することで、一層社員の一体感が高まるという効果も期待できる。

③管理者が全社員の前で約束、幹部が決意表明

大会で発表されたその年の目標は、覚悟をもって完遂させることが最も重要である。そこで、大会では幹部や役職者が全社員の前で宣言し、発表内容の実行を約束するようにしている。幹部や役職者が覚悟をもって取り組んでいることを示すことで、一般社員にも頑張ろうという気持ちが生まれてくるのである。

④証人を立ち会わせる（来賓の厳しい爆弾発言を求める）

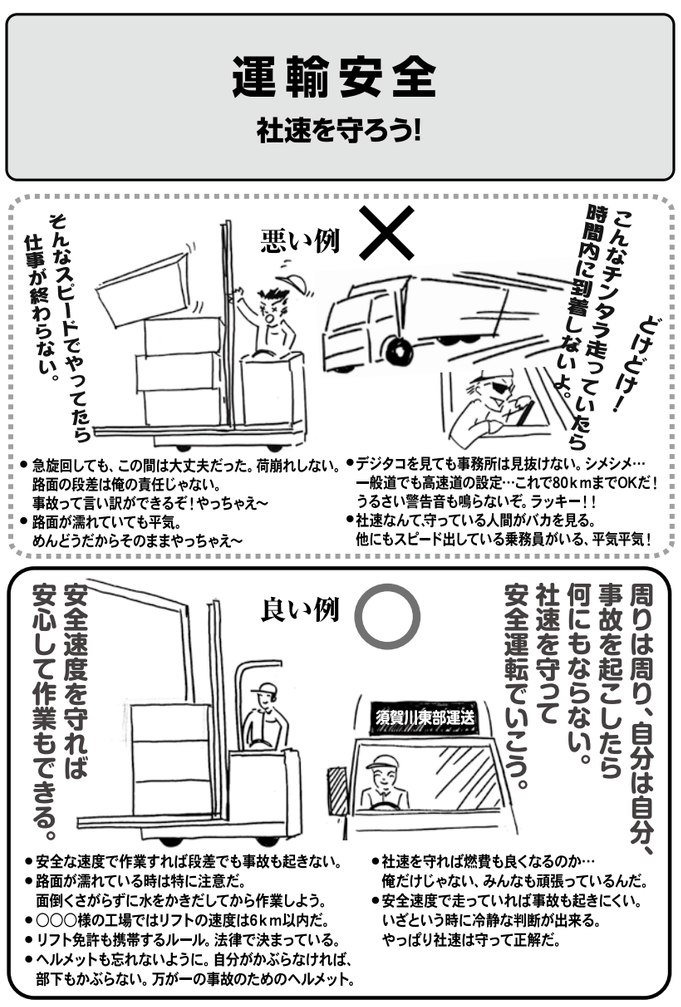
大会開催時には、必ず荷主企業や金融機関などから来賓を招くようにしている。これは、大会で宣言した目標が達成されているかを、他社の人に検証してもらうことが目的であり、手厳しい発言を求めるためである。来賓から刺激的な発言を浴びせられることで社員全員が奮起し、大会で決めたことを完遂していくための原動力となっている。

⑤社員の一体感を醸成させる「ハイ！」訓練・服装点検

同社では、大会開催時に限らず、日頃から「ハイ！」訓練・服装点検を推奨している。社員全員で同じように声を出し、同じ動作を行うことで、社員の一体感を生み出している。

「ハイ！」訓練では、2人の社員（AさんとBさん）がお互い向き合い、まず握手する。Aさんは「Bさん！」と声をかけると、Bさんは「ハイ！Aさん！」とそれに応

図1



KITO
過酷な現場で、タフに使える!
運輸、橋梁、建設、土木、造船、林業などの各種現場で、重量物の荷締め、固定、位置合わせに最適です。
キトー独自の「遊転装置」は、ユーテンニギリを引き上げるだけで、必要な揚程に素速く調整可能。
小形・軽量、しかも強靱なフレームのプロフェッショナル仕様
キトーレバーブロック® L5形　定格荷重 0.8t-9t
「レバーブロック」は、株式会社キトーの登録商標です。
株式会社キトー　◎東部カスタマーセンター 0120-994-404　◎西部カスタマーセンター（名古屋）0120-929-965 /（大阪）0120-959-488
◎本社工場 〒409-3853 山梨県中巨摩郡昭和町築地新居2000番地　◎東京本社 〒163-0809 東京都新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル9F
[お客様相談センター] TEL:0120-988-558 FAX:0120-988-228 E-mail:callcenter@kito.co.jp ◎受付時間 9:00～17:00（土・日・祝日を除く） www.kito.co.jp Global Website: kito.com

FUJITSU
デジタコの情報を複合的に分析、見えないリスクを視る。
急ブレーキ
「長時間運転で集中力が落ち、急ブレーキが発生しがちです。」
動画でも確認!
富士通 クラウドデジタコ DTS-D1D
「運行コンシェルジェ機能」が、運転傾向と改善点までアドバイス。
● 92万画素デジタルカメラと多彩なアナログカメラを最大5台接続。
● クラウド上に動画を大量保存でき、カードによる動画読取処理も不要。
● タブレット端末にも対応し、PCのない環境でも導入可能。
● 車線逸脱・車間距離検知により、危険運転を防止。
クラウド型運行支援サービス
ITP-WebService V2
標準価格 月額1,980円（税別）/車両
標準価格 月額2,690円（税別）/車両［ドラレコ搭載モデル］
＊デジタコ本体費用は別途必要です。　＊機種によって、利用できるサービスが異なります。
transtron 株式会社 トランストロン 情報サービス営業部
〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜2丁目15番地16 NOF新横浜ビル
http://www.transtron.com
■お問い合わせ、資料請求はお気軽に
TEL.045-476-4640
FAX (045)476-5024

働きやすい・働きがいのある会社にしませんか！

～従業員の職場定着を図るために～

採用した従業員が、会社の戦力となる前に離職してしまうことは、事業主にとっても従業員本人にとっても損失になる。従業員が早期離職することなく職場に定着し、その能力を発揮できるようにするには、雇用管理のあり方を振り返り、必要な改善を進めることが重要である。

ここでは、厚生労働省の「働きやすい・働きがいのある職場づくりサイト」などをもとに、従業員の満足度を高め、職場定着に繋がるための施策について、4回シリーズで紹介していく。

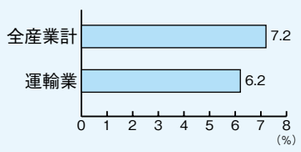
第1回　定着率アップにはまず自社の離職状況の把握から

①従業員の職場定着・離職の状況の把握

従業員の職場定着を図るためには、まず自社における従業員の職場定着・離職の状況を把握しましょう。

・従業員の職場定着・離職の状況は、「離職率」「入社3年後離職率」などから判断することができます。
・「離職率」とは、ある年（度）当初の従業員数に対する、その年（度）中の離職者数の比率です。また、「入社3年後離職率」は、ある年度に入社した従業員が、その翌々年度末までにどれだけ離職しているかという比率です。これは、新規学卒者においてよく用いられる数字です。
・「離職率」、「入社3年後離職率」は、業種・職種などによって平均値が異なります。

参考１：常用労働者の離職率



常用労働者（※１）離職率は、全産業平均で7.2%となっている。産業別でみると、運輸業では6.2%となっている。

離職率＝昨年度の離職数／（昨年度末の常用労働者数＋昨年度の離職者数）

（※１）「常用労働者」とは、正社員のほか、正社員に準じた雇用管理をされる非正規労働者をいい、具体的には、準社員・非常勤・嘱託・契約社員・パートなどの名称で呼ばれている労働者であっても、期間を定めずに雇用されるか、本人が希望すれば通常は契約更新により１年以上の勤務が可能な労働者であって、かつ、フルタイムまたはほぼフルタイムに近い（概ね週労働時間30時間以上）の労働者であれば、「常用労働者」に含んでいる。なお、下請事業所に雇用される労働者、派遣会社に雇用される派遣労働者、契約更新をしても通算雇用期間の上限が1年未満の有期契約労働者、概ね週労働時間30時間未満のパート労働者は「常用労働者」に含んでいない。

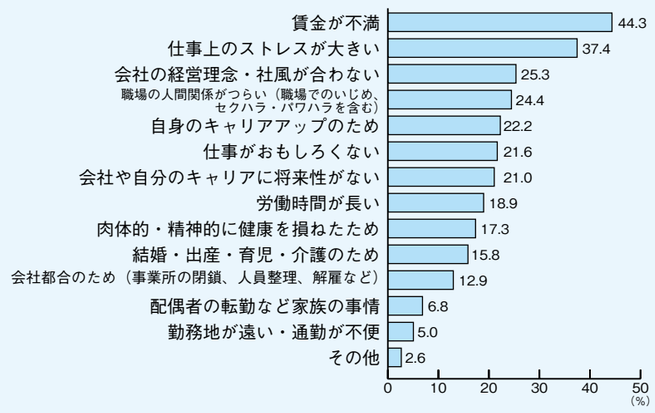
（出典）「働きやすい・働きがいのある職場づくりに関する調査」報告書（厚生労働省職業安定局、平成26年）

②従業員の離職理由の把握

従業員の職場定着・離職防止に向けた対策を講じるためには、従業員がどんな理由で離職しているのかについて把握することが重要です。

・従業員の離職理由を把握する方法としては、離職の申し出があった時点で本人から聞いたり、本人と親しかった同僚などから聞き取りを行うなど、直接的に把握する方法があります。
・しかし、この方法では本人の本音を把握することが困難な場合がありますので、日頃より職場に対する満足や不満など、従業員の職場に対する意識について、社内アンケートや面接などで把握しておくことにより、間接的に離職理由を推測する方法もあります。
・なお、従業員の職場に対する意識は、社内アンケートだけでは把握しきれない面もあり、職場の管理者が、日頃より従業員とコミュニケーションをとったり面接をしたりすることによって把握していくことが何よりも重要です。特に、近年、「賃金が不満」、「仕事上のストレスが大きい」、「会社の経営理念・社風が合わない」に次いで、「職場の人間関係がつらい」を理由として離職する従業員が多い現状もあり、これらを把握するためには日頃のコミュニケーションや面接が有効です。

参考２：中小企業における同僚の離職理由



中小企業で働く常用労働者に対し、同僚がどんな理由で離職する場合が多いかを聞いたところ、「賃金が不満」（44.3%）、「仕事上のストレスが大きい」（37.4%）、「会社の経営理念・社風が合わない」（25.3%）「職場の人間関係が辛い（職場でのいじめ、セクハラ・パワハラを含む）」（24.4%）といった労働条件、仕事のストレス、職場の人間関係に関するものが上位を占めている。

（出典）同上

え、さらにAさんは「ハイ！Bさん！」と応じる。そして、これをひたすら一定時間繰り返すというものである。

また、服装点検では、2人の社員が向き合った状態で、社員として身に着けるべき帽子やベルト、安全靴がきちんと身に着けられているかをそれぞれ指差し呼称していくものである。

⑥大会後のフォロー

一体感あふれる中で大会が開催されても、日々の業務に忙殺されて大会で決められた目標が忘れ去られてしまっては元も子もない。そこで、集団点呼やミーティングの中で目標をその都度再確認するほか、1～2週に1回開催される「進捗確認会議」でしっかりとフォローしていく。また、春の大会は「新年度の計画を発表する」ために開催されるが、秋の大会は「計画が適切に推進されているかを検証する」ための大会として位置付けられており、秋の大会でもう一度気合を入れて計画完遂を全社員で誓うようにしている。

同じ動作を行うことで一体感を醸成させる「ハイ！」訓練・服装点検

研修等を通じコミュニケーション強化 時間を共有することで結び付きが強まる

同社における社員教育では、新入社員向け・現場社員向け・管理者向け教育と、階層ごとにプログラムを設定している。

新入社員に対しては、業界経験者・未経験者それぞれに育成プログラムを整備。まず入社1週目では、会社を理解してもらうための研修（会社概要説明）や、初任運転者教育や倉庫内作業研修などを通じて、同社の社員として最低限必要な知識を教育。2週目以降は先輩ドライバーとの車両同乗研修を行う。運行コースや商品の荷扱いについて研修するほか、未経験者に対してはトラックの運転に慣れてもらうための練習も行う。管理者の見極めを経て、入社2～3か月目には晴れて一人乗務となるが、未経験者については同乗研修が必要であれば継続して行い、安全性の高い運転技術を身に付けてもらう。

一般社員向けの研修としては、物流センターなどの先進地視察を実施。同業者の現場スタッフとコミュニケーションを取り、情報交換を行うことで、研修参加者にとってはいい刺激になっているという。また、各部門で実施しているミーティングを通じて、社員間のコミュニケーション強化に繋げている。

また、管理者向け研修としては、外部講師による自社向け研修会を実施（年5回）。また、品質管理やISO、交通安全などの外部研修会にも積極的に参加させ、知識の習得を図っているという。

このように、同社の社員教育については、各階層でそれぞれスキルアップを図ることのできるプログラムが設定されている。

一方、同社における日々の取り組みとしては、1日12回社内の各所で行われる集団点呼や、1日2回必ず実施する神前での無事故祈願唱和などが挙げられる。朝・昼の全体点呼の際に、全員で読み上げる唱和の内容は社員が考案。日々唱和することで意識を深め、いついかなる時にでも行動に移せるような形にしている。

また、月に1回、会社周辺の清掃や草刈りなどを行う環境整備も実施している。これに関しては、業務の都合で参加できない人を除く全ての社員が参加して行っており、社員みんなが集まって作業を行うことで一体感の醸成に繋げている。

その他にも、社員旅行や新年会、ボーリング大会といったイベントも開催しており、社員のコミュニケーション強化を図っている。

「これまで当社では、退職する人の多くが、職場の人間関係が合わずに辞めていく傾向にありました。日頃から顔を合わせ、コミュニケーションを深め、時間を共有する機会を設けていくことが、人材定着にも繋がってくるのではと感じています」（吉田社長）

日々懸命に頑張る社員を評価し表彰 社員はかけがえのないわが社の「社宝」

同社では、様々な教育カリキュラムに熱心に取り組み、日頃から誠心誠意業務に取り組んでいる社員に対する表彰制度（優秀「人」質賞）が設けられている。

「3年間交通事故・物流品質事故ゼロ」「勤務成績や行動が優秀」「標準以上の出勤日数」などの条件をクリアした社員を対象に賞金が贈られるほか、社員の家族には家族賞として1万円相当の肉が授与される。

事務所に掲げられた、優秀「人」質賞受賞者名が刻まれたシルバープレート

表彰は「経営計画発表大会」の場で行われるが、会場には受賞者が通るためのレッドカーペットが敷かれる。レッドカーペットを敷く理由は、受賞者が会社の宝物「社宝」であると認識しているからなのだそうだ。そして、受賞者には表彰状が贈られるが、表彰状の文面は全員違う内容にしている。文面は全て吉田社長が考えており、各受賞者の長所を表彰状の内容に落とし込んで表彰することで、授与される受賞者にとっては忘れられない思い出になるとともに、表彰されたことを励みに、より一生懸命業務に取り組むようになるという効果もあるようだ。

経営計画発表大会の場で行われる優秀「人」質賞の表彰

さらに、受賞者の名前は、事務所に掲げられたシルバープレートに永久刻印される。会社に名を残した社員として、受賞者の成し遂げた業績は永遠に語り継がれることになるだろう。

「成長を実感できる職場環境」にしていくためには、社員教育の強化や日々の取り組みの充実化を欠かすことができない。しかし、それだけに留まらず、会社のために真摯に働いてくれる社員を適切に評価することも、同じように大切である。人材育成の強化だけでは、ともすると社員の中に「やらされ感」が生まれてしまいかねない。日頃の行いを会社から適切に評価されることにより、社員は初めて自分自身の成長を自覚することができる。成長できたと実感することで、社員として「もっと成長したい」「より真剣に仕事に取り組もう」というように、仕事へのモチベーションも一層高まるのである。

会社が社員の仕事への意識を育み、それをさらなる高みへと引き上げることにより、会社における輸送品質の向上にも繋がる。一方、社員にとっては、仕事への意欲が高まることでやりがいの多い仕事ができるようになり、その分会社への帰属意識も高まっていく。品質を支える「人」の育成体制と環境づくりを一層充実化させることで、同社はさらなる飛躍に踏み出そうとしている。

（取材協力）㈱須賀川東部運送　吉田雅弘代表取締役

㈱須賀川東部運送

［吉田雅弘　代表取締役］

所在地	福島県須賀川市田中字念仏坦 69
資本金	4,000 万円
設立	昭和 48 年 4 月
従業員数	125 人（ドライバー 70 人）
車両数	73 台

ニュース・ターミナル（トラック協会ニュース）

NEWS 2016.12.20−2017.1.1

全ト協

テールゲートリフター補助金

申請受付は2月1日～24日

1台当たり上限30万円、1社3台まで

全日本トラック協会は、2月1日(水)から2月24日(金)まで、「テールゲートリフター補助金」の申請を受け付ける。同補助金は、国土交通省の平成28年度第2次補正予算により、トラック運送業の生産性向上促進事業として実施されるもので、全ト協が執行団体となるもの。

補助対象経費は、機器本体価格（装着費用、工賃等除く）の4分の1。補助額は、1台当たり、垂直式・アーム式については15万円、後部格納式・床下格納式については30万円。なお、新品を新たに購入した場合のみ対象となる。

当該装置搭載車の所有者（保有車両数5両以上の運送事業者またはリース事業者等）が申請可能で、1連送事業者当たりの補助台数は3台まで。

また、機器の導入対象期間は、平成28年8月24日から29年3月31日までで、同期間内に導入が完了し、かつ支払いが全て完了していることが条件。

テールゲートリフター

補助対象となる型式については、全ト協がメーカーに公募し、審査を行った上で型式指定を行い、1月上旬に公表する予定。

申請受付は所属する都道府県トラック協会の窓口で行うほか、全ト協への郵送も受け付ける予定。

詳細は、準備ができ次第、全ト協ホームページに掲載するほか、次号『広報とらっく』にも掲載する。

なお、予算額は3・6億円で、補助金申請額が予算額を超過した場合、補助金が交付されない場合がある。

下請取引適正化に向け「自主行動計画」年度内に策定へ

第1回策定チーム会議

物流ネットワークワーキング委員会「第1回自主行動計画策定チーム会議」が、12月22日に開催された。

政府では、平成26年12月の政労使合意等を踏まえ、「下請等中小企業の取引条件改善に関する関係府省等連絡会議」を首相官邸に立ち上げ、取引条件の改善を図るための議論を行っている。28年10月18日に開催された同会議では、野上浩太郎内閣官房副長官がトラック運送業に関する下請取引の適正化に向けた対策の充実を指示。それを受け、11月22日に、国土交通省の根本幸典大臣政務官が全日本トラック協会に対し、下請との取引条件の改善や下請多重構造の改善を目指すための「自主行動計画」の策定を要請。

全ト協では、同要請を受け、物流ネットワークワーキング委員会の中に、自主行動計画策定チーム会議を立ち上げた。

第1回目となる今回は、国交省の加藤進自動車局貨物課長から同会議設立に至った経緯について説明された後、福山通運㈱の山本浩史常務執行役員をチームリーダーに選出。続いて、自主行動計画策定に向けての今後の具体的な検討内容に関して、議論を行った。併せて、国交省土地・建設作業局の川浪信吾建設業課建設業適正取引推進指導室長による有識者講義「建設業における法令遵守について」が行われた。

同会議は今後2月下旬までに最終案を策定。自主行動計画の年度内策定に向けて取り組んでいく。

第1回自主行動計画策定チーム会議（12月22日、全ト協）

事故防止特設ページをリニューアル

全ト協ホームページ

全日本トラック協会はこのほど、ホームページ内の「事故防止特設ページ」をリニューアルした。

トップページ右上のバナーをクリックすると、特設ページに移動し、各種メニューを表示（図）。追突事故・交差点事故の防止マニュアル（撲滅キット）をはじめ、重大事故に係る統計や啓発資料などのデータ、社内で掲出できるポスターやWEB版ヒヤリハット集などをテーマ別に分かりやすくまとめ、会員事業者への活用を促している。

全ト協 行事予定

（1月1日～1月31日）

- ▽1月12・13日
  - ・全国専務理事業務連絡会議
- ▽1月19日
  - ・正副会長会議
  - ・第3回総務委員会
- ▽1月24日
  - ・平成29年新年賀詞交歓会

労務 Q&A

第128回

人材確保のため賃上げを検討したいが、最近の実態は

Q 人材確保のため、弊社でも次年度にはそろそろ賃金引き上げの検討が必要ではないかと考えています。そこで、最近の賃金引き上げの実態がどうなっているのか、その動向をお教えください。

A 「運輸業、郵便業」では、今年は1人平均412円で1・7%アップ

【解説】最近の賃金引き上げ状況については、先日、厚生労働省が「平成28年賃金引上げ等の実態に関する調査」の概況をまとめていますので、その中から「運輸業、郵便業」（日本標準産業分類・大分類）の数字をご紹介することにしましょう。

「運輸業、郵便業」の事業場について、まず、平成28年中における賃金改定実施（予定を含む）状況をみると、「1人平均賃金を引き上げた・引き上げる」は81・2%、「賃金の改定を実施しない」は6・7%となっています。27年がそれぞれ78・8%と20・2%でしたから、「1人平均賃金を引き上げた・引き上げる」が前年より若干上昇した一方で、「賃金の改定を実施しない」が大幅に減少したことが分かります。「1人平均賃金を引き下げた・引き下げる」というところは、前年に引き続きゼロでした。

次に、賃金の改定状況ですが、1人平均賃金の改定額は412円で、改定率は1・7%でした。27年が3652円の1・4%でしたから、改定額で469円、改定率で0・3ポイントアップしています。

定期昇給（定昇）制度やベースアップの状況では、管理職については、「定昇制度あり」が62・0%、「定昇制度なし」が34・8%でした。「定昇制度あり」の定昇の実施状況をみると、「行った・行う」が50・0%、「行わなかった・行わない」が10・7%、「延期した」が1・3%となっています。一方、一般職については、「定昇制度あり」が73・3%、「定昇制度なし」が23・5%です。定昇の実施状況は、「行った・行う」が67・0%、「行わなかった・行わない」が6・3%となっています。「延期した」としたところはありませんでした。

定昇制度とベースアップ等の区別の有無及び実施状況では、賃金の改定を実施または予定している企業及び賃金の改定を実施しない企業のうち、「定期昇給制度がある企業」について、ベースアップ（ベア）等の実施状況をみると、「定昇とベア等の区別あり」は、管理職で56・9%、一般職で52・4%となっています。このうち「ベアを行った・行う」は、管理職で14・8%、一般職で24・4%でした。

なお、賃金の改定の決定に当たって最も重視した要素については、これは全産業の数字になりますが、「企業の業績」が51・4%（前年52・6%）と最も多く、「重視した要素はない」を除くと、「労働力の確保・定着」が11・0%（同6・8%）、次いで、「親会社または関連（グループ）会社の改定の動向」が5・9%（同5・4%）となっています。

以上の結果などを参考に、改定作業の準備にかかられるとよいでしょう。

タイヤケア ホントの話

タイヤジャーナリスト 渡辺 剛満

第68回「雪道の立ち往生を防ぐ、新しい交通対策に期待する年」

積雪した路面を走行中に、突如としてタイヤのスリップが始まり、アクセルを踏み込んでもタイヤが空転するだけの状況に陥ると、よほどのことがない限り、その場所からの移動は困難になります。片側1車線の道路で、側道に逃げ道がない場所だと、1台のクルマが動けなくなっただけで、後続する車両すべての動きが止まります。

一度発生させると大変危険なこの「立ち往生」とそれに伴う渋滞を防ぐため、昨年11月、国土交通省は、積雪時に幹線道路で立ち往生が発生した場合、その原因を作った車両に対し、罰金を科す方向で検討を始めました。

この交通対策はテレビやインターネットなどにおいても大きく報道され、「雪道でチェーンを巻かない車両はすべて違反対象になる」と解釈した人が多くみられました。中には、「スタッドレスタイヤを装着するよりも、夏用タイヤにチェーンを巻いた方が罰金から逃れられる」と早合点した人も少なからずおり、さらに、「スタッドレスタイヤよりも夏用タイヤ＋チェーンの方が『安全』なのでは?」という話まで飛び出したほど、この新たな対策の行方に注目が集まっています。

まず、乗用車に関していえば、「夏用タイヤとチェーン（前輪もしくは後輪）」の組み合わせは、近所への買い物程度にしか通用しないレベルの雪道装備です。仮に、雪が降り始めてからチェーンを装着したとしても、新雪が一気に積もった場所では立ち往生する可能性が高いので、この組み合わせに対しては厳しいペナルティが欲しいところです。

また、トラックに関しても、明確な線引きが必要だと考えます。トラック用タイヤには、浅い雪道は何とか走行できる「オールシーズンタイプ（通称：ミックス）」もありますが、後輪にチェーンを装着しさえすれば安心かというと、全くそうではありません。氷に対して無力な前輪は、雪の下に隠れた凍結路面で確実に滑るので、カーブを曲がる際に大回りになるなどして、反対車線の車列に突っ込む危険性があります。そうなれば、必ず事故による立ち往生が発生します。「チェーンを巻けば、何とか走行できるだろう」という甘い考えは捨てること、雪道で無茶な運行をさせない規定を設けることが必要です。

最後に、「冬用のスタッドレスタイヤ」についてです。安全性を確保できる指標でもある「ゴムの鮮度が3年目以内、かつタイヤの溝が70%以上」という基準を満たしていれば、チェーンを巻かなくても、たいていの雪道は走行できます。凍結路面や15センチメートル程度までの降雪に対しては、「ある程度のスピードを出すことができ、降雪区間をより短時間で脱出できる」というメリットを考慮すれば、スタッドレスタイヤこそが立ち往生を起こしにくい装備だといえます。

この新しい交通対策は、国交省では今年の冬以降の実施を目指しているとのことで、スタッドレスタイヤの優位点を考慮しながら、安全最優先の形に練り上げられることを期待したいです。

この1年、こうした喜ばしいニュースがタイヤ業界に続くことを望みます。

全日本トラック協会 presents　TBSラジオ系列全国33局ネット

『ドライバーズ・リクエスト』放送中!

当協会提供のラジオ番組『全日本トラック協会Presentsドライバーズ・リクエスト』（TBSラジオ系列全国33局ネット）は、トラック運送業界の安全や環境等の取り組み等を内外に広くPRするとともに、車に関する話題や音楽で全国のドライバーの皆さんの安全運行をサポートします。『ドライバーズ・リクエスト』では、皆さんからのお便り、リクエストをお待ちしています。

平成28年4月の放送からフリーキャスター宮崎瑠依さんとTBSアナウンサー皆川玲奈さん（8面にインタビュー）の2人でお送りしています。

・特別番組放送予定
1月13日(金)　「トラガール特集②」
国土交通省自動車局貨物課 課長補佐　福田 ゆきの氏

国が推進する「トラガール促進プロジェクト」などについて紹介する国交省の福田ゆきの課長補佐（右写真㊨）とパーソナリティの宮崎瑠衣さん（同㊧）

ニュース・ターミナル（官公庁ニュース等）

NEWS 2016.12.20–2017.1.1

国交省

運賃・料金の実態について調査

1月中旬にかけ実施

国土交通省はトラック運送業における運賃・料金に関するアンケート調査の概要を決めた。12月15日に開いた適正運賃・料金検討会での意見を踏まえてまとめたもので、都道府県トラック協会正副会長・青年部会、全日本トラック協会が実施する景況感調査等の協力者などを対象に、12月下旬から1月中旬にかけて、ウェブと郵送により実施する。

調査では、具体的な輸送品目や契約している運賃の体系について聞くほか、料金について、燃料サーチャージ、車両留置費、附帯業務料、積込・取卸料、通行料、特種品目費、割増料金などの収受の有無を聞く。

また、本調査の他に、「トラック輸送の取引実態に関する調査」も同時期に実施することとしている。これは、多層下請構造の中での取引の実態について把握し、トラック運送業界内における取引の適正化に向けた方策の検討に役立てることを目的に実施するもの。

国交省および全ト協では両調査への協力を呼び掛けており、両調査とも全ト協のホームページからも回答できる。

平成29年度予算案を閣議決定

政府は平成29年度予算案について、28年12月22日に閣議決定した。トラック運送事業関係では、①最先端の低炭素型ディーゼルトラック導入補助、大型CNGトラック導入補助（39・7億円：環境省連携事業）、②車両動態管理システム導入支援（40億円：経済産業省連携事業）などが計上された。

5車種区分に整理・統一

近畿圏の高速料金で方針案

国土交通省は12月16日、近畿圏の新たな高速道路料金に関する具体方針（案）を発表した。また、これに基づく具体案を26日に阪神高速道路㈱などが発表した。

首都圏での見直しと同様に、対距離制の料金を導入するが、物流への影響などを考慮して、阪神高速などでは当面上限料金を設定する。また、車種区分を5区分に統一するが、阪神高速については、車種間料金比率が1・2（普通車1・0）となる中型車は1・07に、同じく2・75となる特大車は2・14とする激変緩和措置を平成33年度まで実施する。

また、阪神高速の大口・多頻度割引については、平成44年3月末まで現行の最大30％割引を継続するとともに、大阪・神戸都心部を通行しないETC車には最大35％まで拡充する。

このほか、大阪および神戸都心部への流入に関して、交通分散の観点から、経路によらず起終点間の最短距離を基本に料金を決定する。

阪神高速については、淀川左岸線延伸部と大阪湾岸道路西伸部の整備に必要な財源を確保する観点から、有料道路事業の事業費の概ね5割を確保するため、様々な工夫を行いつつ、必要な料金を設定する。

今後、地方議会の議決・地方自治体の同意を得て、29年度の早い時期から実施する。

高速道路の正面衝突防止対策

暫定二車線ロープを設置

国土交通省は12月20日、高速道路の約3割を占める暫定二車線区間の正面衝突防止対策を実施すると発表した。

これまで、機動的な四車線化や付加車線の設置検証を進めてきたが、命を守る緊急性に鑑み、緊急対策として、ラバーポールに代えてワイヤロープを設置することによる安全対策の検証を行う。

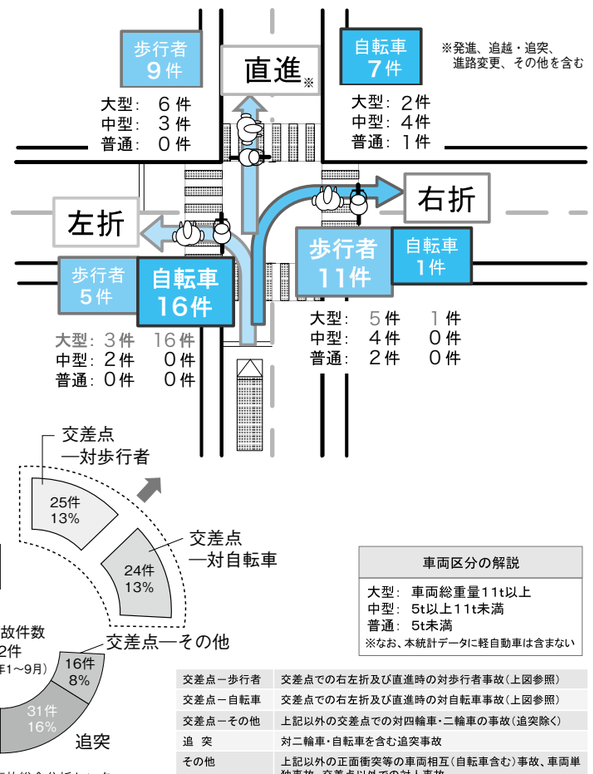
全国の暫定二車線区間約1000キロメートル（土工区間）のうち、約100キロメートルを29年春から設置し検証する。

また、検証に当たり、技術的助言を行う技術検討委員会を設置し、12月26日に初会合を開いた。

平成28年1～9月 事業用トラックが第1当事者となった死亡事故データ（交差点[追突を除く]）

◆ 交差点における死亡事故（対歩行者・自転車別）

- 事業用トラックが第1当事者となる交差点における対歩行者、自転車の死亡事故（49件）は、追突事故（31件）の1.6倍。
- 左折死亡事故は、9割以上大型車であり、対自転車事故では全てが大型車(16件)。
- 右折死亡事故は、9割以上が対歩行者（11件）。



出典：(公財)交通事故総合分析センター

車両区分の解説	
大型：	車両総重量11t以上
中型：	5t以上11t未満
普通：	5t未満

※なお、本統計データに軽自動車は含まない

交差点－歩行者	交差点での右左折及び直進時の対歩行者事故（上図参照）
交差点－自転車	交差点での右左折及び直進時の対自転車事故（上図参照）
交差点－その他	上記以外の交差点での対四輪車・二輪車の事故（追突除く）
追　突	対二輪車・自転車を含む追突事故
その他	上記以外の正面衝突等の車両相互（自転車含む）事故、車両単独事故、交差点以外での対人事故

しんちゃん

［第18回］　前川しんすけ

トラック運送事業者のための 経営のヒント

物流ジャーナリスト　森田 富士夫

第177回 生産性って何？ 向上の目的は

昨年1月1日号の当コラムのタイトルは「生産性向上で付加価値追求の年に」だった。「生産性向上が強く求められる年になる」と書いたように、昨年は生産性の向上が大きなテーマになった。今年は、生産性の向上に具体的に着手する年になるだろう。

そこで「生産性とは何か」を改めて考えよう。先日、ある研究会でメンバーの1人が「生産性って何」と切り出した。そこで筆者は「怠けることじゃないですか」といったのである。同じ結果を求めるなら、より楽にできた方がよい。あるいは同じ労力をつぎ込むなら、より多くの果実が得られるようにする。あえていえば「怠け者の論理」だ。

運送業界は真面目な人が多いので、勤勉に働き続ける。それは良いことだが、どんなに努力してルーティンワークを繰り返していても進歩はない。もちろん作業に習熟してスキルが向上すれば、果実が増える。だが、これは生産性向上とはいえない。生産性とは習熟ではなく、仕組みを変えることである。真面目な人はスキルアップに励むが、「怠け者」は楽をしようとする。そのため楽な（新しい）仕組みを考える。

では、なぜ生産性を向上させる必要があるのか。端的にいえば企業間競争に勝つためだ。そもそも、企業競争とは他社よりも生産性を高くするために競い合うことである。安く売ることではなく、生産性向上の追求が企業間競争にほかならない。

さらに、今後は国内市場が縮小していく。椅子取りゲームに例えるなら、市場拡大の局面では、競争相手が2人増えても、椅子も1つ増えるようなものである。だが市場縮小は、競争相手が1人減っても、椅子は2つ減るのと同じだ。競争がより激化する。そのため競争力を強化しなければ勝ち残れない。

では次に、生産性向上によって企業間競争に勝ったら何が必要か。それは以下の4つへの的確な配分である。①は、新たな競争に備えるための設備投資。②は社員への成果配分。③は株主への配当。そして④が企業の社会的責任のための支出である。これら4つの配分のバランスは、それぞれの企業の内部要因と、企業を取り巻く外部要因によって、優先度（配分比率）が違ってくる。設備投資を最優先しなければならない局面もある。また、社員の待遇改善を最重視すべき時もある。株主配当は上場企業、外部の法人株主がいる非上場企業、オーナー経営の企業では条件が違う。企業の社会的責任は、一定の余裕ができてからでもよいだろう。

これらのバランスを判断するのが経営者の仕事である。それには、まず生産性の向上が必要だ。

食の新旧街道を行く

—俯瞰食文化学の視点から—

フードジャーナリスト、食文化研究家　向笠 千恵子

98「国産砂糖の道」品格の甘味、阿波和三盆糖

正月のおせちの甘い味付けはほっとする。砂糖たっぷりの甘いものを食べると幸せな気持ちになるのは、砂糖のセロトニンによる精神安定効果のおかげだ。当然、運転中に甘味を食べれば、安全運転にも繋がるだろう。

最近人気が高い砂糖は、白と黒。黒は黒糖で、南国育ちのサトウキビ。雑味が多くて甘味も豊潤だ。白は上白糖やグラニュー糖を抑えて、和三盆糖の品のよい甘さが脚光を浴びている。

和三盆糖は純国産の砂糖で、純度が高く、甘味がすっきりしている。産地は四国の讃岐山脈の南麓と北麓。北側の香川県では「讃岐和三盆糖」、南側の徳島県上板町では「阿波和三盆糖」がつくられている。なかでも上板町の「岡田製糖所」は、伝統製法を守る『糖源郷』である。

原料は在来種のサトウキビ。糖度が高まる12月に収穫して絞り、黒褐色の汁を煮つめて結晶化させる。その後が、和三盆ならではの「研ぎ」の工程。粗糖の固まりに水を加え、軟らかくしながら練っていくのだ。盆の上でこの作業を3回繰り返すところから、「和三盆」と名が付いた。

研ぐごとに糖蜜が抜けて、褐色から生成り、白へと色が徐々に変わるから、よく乾燥させてふるいにかけて粉にする。

いちばんおいしいのは、湿らせた和三盆を木型に入れて固めただけの干菓子。舌にのせれば淡雪のように消えていき、淡いのに濃い甘味の奥からうま味が生まれ出る。

この甘さは、和食とは格別の相性よし。正月に印象に残ったおせちは、和三盆糖を使っていると思って間違いない。

また、地元・徳島市の「栄寿司」では、卵焼きに和三盆糖を加えるし、鳴門鯛の兜煮は和三盆糖を隠し味にしてまろやかに煮上げているから一口食べれば幸せになれる。

（むかさ・ちえこ）

PA-MAN

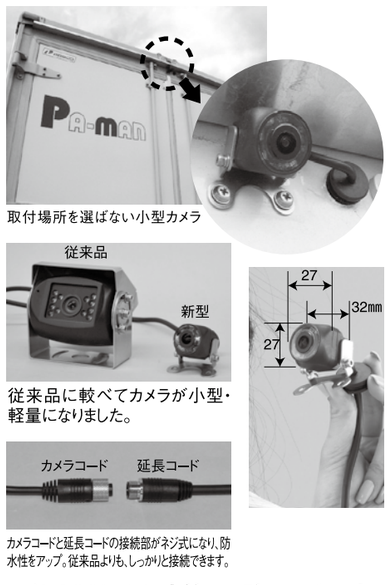
インターネットからもご注文お受けします。
http://www.Pa-man.com/

新商品 バック・カメラ
カラー DC12～24V ノンシャッター・カメラ

品番 11200300 型式 PBC120
CMOSカメラ水平画角 120°（対角154°、垂直95°）
セット価格 39,980円 税別

※映像はハメコミ合成です。

①7.0インチTFT液晶モニター（スタンド付）スピーカー内蔵
②CMOSカメラ（赤外線LED内蔵・マイク付）
③電源・映像兼用コード（5m）
④フロントガラス用モニター固定具
⑤カメラ延長コード（10・15・20・25mから選べます）



●ワイド120°になり広範囲で確認できます。
●小型カメラの採用で、小スペースでの取付が可能です。
●赤外線LED内蔵で暗闇でもハッキリ見えます。

※詳しい仕様は弊社カタログ・ホームページでご確認ください。

品質マネジメントシステムに関するISO9001取得

創業1965年
株式会社パーマンコーポレーション
信頼の3年保証
http://www.pa-man.com/　E-mail:hrinfo@pa-man.com
〒550-0021 大阪市西区川口4-1-5
ご注文電話 0120-202-800

物流は話したい。

物流は、過去、現在、そして未来においても、欠かすことのできない社会インフラです。その重要性がますます高まっています。物流は日本の経済や産業を支えます。社会とともに本紙『物流ニッポン』が物流を支えます。

教育・社会への貢献を目的に、高校3903校や大学1068校、図書館2334館、ハローワーク461所および国会議員715人の計8481件へ向け、本紙『物流ニッポン』を贈呈しています。皆さまの有益な情報源となりますよう、ひいては就職活動などの一助にしていただければ幸いです。

また、物流業界に関するご要望は、最寄りの支局まで何なりとお申し付けください。第一線記者が“橋渡し役„を買って出ます。情報の選択、活用は最大の武器です。本紙を手にし、ご批判を賜ればうれしいです。

■エンゼルプレゼント■
教育へ。社会へ。産業へ。
人と物流の、より良い関係づくり。
「ハンド inハンド」。

協力：国土交通省
後援：公益社団法人全日本トラック協会
事業主体：株式会社物流ニッポン新聞社

お問い合わせ：物流ニッポン新聞社　TEL 03-3221-2345　FAX 03-3221-2348

新春 まちがいさがし

20か所みつけられるかな？

テーマ「楽しいお正月」

【作画】前川しんすけ

Ⓐ

Ⓑ

Ⓐの絵と異なる箇所20か所をⒷに○をつけてください（印刷の汚れやカスレは間違いに含みません）。

【応募方法】ⒶⒷ2つの絵には20か所の間違いがあります。Ⓑの絵を切り取るかコピーして、郵便はがきに貼ってお送りください。郵便番号、住所、氏名、会社名ならびに『広報とらっく』に対するご意見、ご感想もお書きください。正解者の中から抽せんで20名様に記念品を差し上げます。

【締め切り】平成29年1月31日（火）（当日消印有効）

【宛て先】〒160-0004 東京都新宿区四谷三丁目2番5 全日本トラック総合会館
（公社）全日本トラック協会総務部広報室

【発表】当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。まちがいさがしの正解は2月1日号の本紙に掲載します。皆様のご応募をお待ちしています。

※ご記載いただきました個人情報の取り扱いについては、「公益社団法人全日本トラック協会 個人情報保護方針」に準じます。

花一輪

ラジオを通して「運転の楽しさ」と「車の魅力」を伝えるパーソナリティ

TBSアナウンサー　**皆川（みながわ） 玲奈（れいな）さん**

トラックドライバーをはじめとした幅広い層のリスナーに向け、トラック運送業界のPRを行っている全日本トラック協会提供のラジオ番組『ドライバーズ・リクエスト』は、TBSラジオをキーステーションに全国33局ネットで放送されている。

今回の「花一輪」では、平成28年4月から宮崎瑠依さんとともに同番組のパーソナリティを務める皆川玲奈アナウンサー（TBS）にご登場いただき、車の運転やラジオの魅力、トラック運送業界のイメージについて伺った。

大学では自動車部に所属 入部理由は「苦手克服」!?

――皆川アナといえば、大学時代は自動車部で活躍し、国内A級ライセンスを所持するなど、車への造詣の深さで知られています。車好きになった経緯を教えてください。

私が免許を取ったのは18歳になってすぐ、高校3年生の夏休みのことでした。教習所に通っていた時は、「運転って楽しいな」と思いはしていましたが、今のように車好きというわけでは決してありませんでした。特に車庫入れが苦手で、車に乗って出発するはいいものの、帰ってきて車庫入れをしなければならないことがとても憂鬱でした。

「車庫入れや運転自体への苦手意識を克服したい」と考えていた私は、大学の新入生歓迎会で配布された部活動やサークルの紹介冊子に、「自動車部」の文字を見つけました。自動車部はモータースポーツ競技を行う部活動で、決して運転を教えてくれるわけではないのですが、「この部に入れば、上手な車庫入れの仕方を教えてくれるのではないか」と思い（笑）、自動車部に入部しました。

入部してみると、周囲の仲間の自動車に対する熱意や、豊富な知識量に驚かされました。そんな仲間たちにいろいろと指南を受けているうちに、どんどん車に関心をもち始めている自分がいました。私が一番好きな車「FIAT500」に出会うことができたのも、今の車好きな自分があるのも、車の知識や、車への興味と探究心を授けてくれた自動車部の仲間のおかげです。そして車庫入れも無事に克服し（笑）、レースにも多数参加するなど、自動車部での活動を通じて、運転の楽しさも、車の知識を身に付けることの楽しさも知ることができました。

モータースポーツの醍醐味は、アスリートのように「自分との戦い」を追求していくところだと思います。私は、勝負が結構好きなほうというか、負けず嫌いなんです（笑）。練習すればするだけタイムも速くなり、ゲームを攻略するような感覚で運転することがとても面白かったですし、車内に自分しかいない中で、恐怖心やプレッシャーに打ち勝つことに強い達成感を覚えました。0・1秒のタイム差で負けたことも何度もありましたが、そういう悔しさを経験してこそ、勝てた時の喜びはひとしおでした。

パーソナリティの楽しさがリスナーにダイレクトに伝わるような放送を

――ラジオでは『ドライバーズ・リクエスト』と『週刊自動車批評』を担当するなど、自動車部での経験や車への知識が今存分に活かされていますね。

私は普段、テレビではアナウンサーとして番組を進行する側を担当していますが、『ドライバーズ・リクエスト』では、説明・進行をする宮崎瑠依さんに対して、相づちを打ったりリアクションをとったりします。おすすめのスポットや商品を紹介して、「私も行ったことがあります」、「私も使っています」といった私的なお話をする機会はそれまでになく、ラジオで初めて経験したことで、当初は戸惑いました。

しかし、「自分の経験してきたことや思っていることをそのまま話していいんだよ」というアドバイスをスタッフにもらってから、要領が徐々につかめてきました。ラジオにおいては、リスナーや共演者を楽しませることはもちろん、誰よりも自分が楽しむことが大事だと気付いたのです。

ラジオのお仕事を続けているうちに、ラジオパーソナリティとは、自分の考えや「色」、今までの経験や今思っていることを、トークの中で120%出していかなくてはならない仕事だということが分かりました。

パーソナリティとしての課題はまだまだありますが、『ドライバーズ・リクエスト』はやっていて本当に楽しい番組です。宮崎さんも私も車好きなので、特に運転の話となると毎回話が盛り上がってしまって大変なんです（笑）。そういう意味では本当に2人の息はぴったりなので、リスナーの皆さんにはそこを楽しんで聴いていただけたらうれしいです。

今後は、私発信の企画を増やしていくことができればと考えています。先日、番組内で取り上げた「ダムカレー」は、私の提案が採用されたものです。いろいろと情報収集をしながら、ドライバーの皆さんに興味をもっていただけるような話題を提供していきたいです。

高い運転技術を誇るトラックドライバーを尊敬

――トラック運送業界にはどんなイメージがありますか。

実は私、大学の自動車部時代にトラックを運転したことがあるんです。自動車部の大会には、乗用車部門と貨物部門があり、貨物部門では平ボディの2㌧車を運転して、車庫入れやスラロームなどの運転技術を競います。私も何度か挑戦したのですが、トラックの運転は本当に難しいですね。運転席の高さも、ハンドルの感覚も乗用車とは全然違いました。前を思いっきり振っても後ろがついてこなかったり、ミラーの大きさも違ったりと、距離感が全然つかめませんでした。特に難しかったのはスラロームで、結局トラックの運転には大いに苦戦し、先輩たちに「皆川は貨物に向かない」と言われ、乗用車部門に専念することになりました（笑）。トラックドライバーさんの運転技術の高さは、その時に身をもって痛感しました。

私たちの日々の生活は、トラックドライバーさんの存在があってこそ成り立っています。長距離を長時間運転する、体力勝負のお仕事ですし、本当に尊敬します。今後も、日々大変なお仕事をなさっているトラックドライバーの皆さんに、運転中に聞いてクスッと笑ってもらえるような、楽しい放送を目指していきたいです。

◆プロフィール

名　前：皆川　玲奈（みながわ・れいな）
生年月日：平成3（1991）年6月30日
出身地：東京都　出身校：青山学院大学
特　技：車のホイールをピカピカに洗うこと
免許・資格：国内A級ライセンス、小型船舶操縦士免許1級・特殊など
担当番組：TBSテレビ＝『NEWS23』（月～木曜：23時～、金曜：23時30分～）、『自熱ライブ　ビビット』（ナレーション、火曜8時～）。TBSラジオ＝『LAUGHTER NIGHT』（土曜24時～）、『週刊自動車批評』（月曜17時50分）

＜公式プロフィールより＞

『全日本トラック協会presents ドライバーズ・リクエスト』放送局一覧

（TBSラジオをキーステーションに全国33局ネット）

エリア	放送局	時間	エリア	放送局	時間
関　東	TBSラジオ	13:42～13:49	和歌山県	和歌山放送	12:30～12:37
北海道	北海道放送	15:35～15:42	島根県 鳥取県	山陰放送	12:30～12:37
青森県	青森放送	13:05～13:12			
秋田県	秋田放送	12:10～12:17	岡山県	山陽放送	12:50～12:57
岩手県	岩手放送	12:25～12:32	広島県	中国放送	17:15～17:22
山形県	山形放送	12:20～12:27	山口県	山口放送	14:50～14:57
宮城県	東北放送	12:20～12:27	香川県	西日本放送	12:50～12:57
福島県	ラジオ福島	16:10～16:17	徳島県	四国放送	13:10～13:17
新潟県	新潟放送	12:23～12:30	愛媛県	南海放送	15:00～15:07
長野県	信越放送	13:35～13:45	高知県	高知放送	13:05～13:12
富山県	北日本放送	12:10～12:17	福岡県	RKB毎日放送	13:32～13:39
石川県	北陸放送	11:50～11:57	長崎県	長崎放送	12:15～12:22
福井県	福井放送	12:50～12:57	大分県	大分放送	12:10～12:20
山梨県	山梨放送	12:30～12:37	熊本県	熊本放送	13:15～13:22
静岡県	静岡放送	12:45～12:52	宮崎県	宮崎放送	16:20～16:27
東　海	CBCラジオ	13:39～13:46	鹿児島県	南日本放送	13:00～13:10
関　西	毎日放送	15:45～15:52	沖縄県	琉球放送	14:50～14:57

※特別番組などにより放送時間が変更になる場合があります。

こちら広報室 四季折々 106

2017・1・1

▼あけましておめでとうございます。今年の干支は十二支の10番目の「酉」。「酉＝鳥」は、人に時を報せる生き物で、太陽が昇る時に鳴くため、太陽を導く神に仕える鳥「神鶏（しんけい）」と呼ばれています。一方で「とり込む＝商売繁盛」に繋がるなど、西年は運気の強い年とされています。▼運気といえば、私が出張で札幌を訪れた際に、街路の辻占に「仕事」「健康」「人間関係」の3つについて占ってもらうと、驚くほど的確な指摘が返ってきました。その後、季節が異なる時期に同じ辻占に同様の質問をしてみましたが、前回の指摘がぶれることはありませんでした。その指摘を今後の人生に活かせるかどうかは分かりません。また、自分の力だけではどうにもならない要素も含まれ、とても貴重な体験でした。▼そう言えば、月に2回ほど通う埼玉県下の針灸院での会話を紹介すると。歳の頃50代前半の男性の針灸師は、患部の周りに細い針を巧みに刺しながら変幻自在に話を仕掛けてきます。それは針の痛みを和らげる一環かもしれませんし、私が話し好きだと知ってのことかもしれません。朴訥な話しぶりながら、会話のキャッチボールはお互いに利害関係も発生しないことから遠慮もなく、話の展開も早く面白いです。▼針灸院へ向かうその道筋には、「今井屋」、「横浜屋」、「越後屋」など、昔ながらの屋号で商売を営むお店が軒を並べています。中には店仕舞いをして、看板だけが掲げられてあるお店もあります。約50分の診療が終わり、外に出て少し歩くと、食欲を誘う匂いが食堂から。その中の「今井屋」に入りました。▼お新香付きで850円のソースカツ丼は、カツが丼からはみ出して蓋が閉まらず、香ばしい匂いとともにますます食欲を誘います。サクッとした食感もよく、地元に根付いた懐かしい美味な味です。その味は、都会ではなく地元で何十年も作り続けているからこそ意味があるのだと思います。ただ、最近はグルメ雑誌や旅行雑誌に取り上げられた影響からか、一見のお客がお店の中の様子を写メしたりワイワイと賑やかで、静寂の一角が崩れています。▼問診と投薬のため訪れた土曜日の病院は、普段なら静寂ですが、12月24日は年内最後の土曜診療ということで、多くの人達で溢れています。▼9時30分の受付時、いつもなら70番台なのに、その日は130番台とほぼ2倍です。病院内には様々な病気を抱えて来た人、病気を克服してその後の経過を確認する人と、一様に表情は極めて冷静です。一年の決算ということで考えると、改めて「健康第一」が基本となります。▼再び干支の話に戻り酉年の特徴を紐解くと、酉年の人は「親切で世話好き」との解釈。今年も多くの人々との出会いや惜別の場面に我が身を置くなど、「奇縁」といえる運命に誰彼となく遭遇することでしょう。思うに、ただ日常が荒波も無く大風も無く淡々と過ぎていくことが一番大事なのでは。そう、実は平凡なのが一番非凡なのかもしれません。▼今年が、更に一歩も二歩も前進できるよう、新たな気持ちである「一新」を胸に刻み付け、新年の一歩を踏み出してみたいと思います！

（山崎薫）

Pioneer　クラウド型運行管理システム　VehicleAssist ビークルアシスト

人手不足 高齢化　事業者様の お悩み解決 お手伝いします　事故増 残業増

資料請求，お問い合わせは
https://www3.pioneer.co.jp/car/biz/va/contact/
TEL 03-6634-9566
お試し無料モニター受付中！ 30日間
詳細は ビークルアシスト　パイオニア 検索
パイオニア販売(株)　開発営業部　〒113-0021 東京都文京区本駒込2-28-8 文京グリーンコート

クラウド型ドライブレコーダー 管理システム
WEBドラサービス for Samly

危ない運転動画をPC・タブレットでいつでも、どこでも瞬時にキャッチ。

クラウドサービス初！
〈1動画10秒/300件〉
自動分類・保管。

Tiger 株式会社タイガー
www.tiger-inc.co.jp
東京本社：03-5283-7232　〒101-0064 東京都千代田区猿楽町2-1-14 A&Xビル2F
札幌支店：011-874-5195　名古屋支店：052-961-9773　大阪支店：06-6201-3841
広島支店：082-243-6361　福岡支店：092-281-5138　熊本営業所：096-206-9556